業界を挙げCO₂排出削減へ

（社）愛知県産業廃棄物協会青年部会長 加山順一郎氏に聞く

社団法人全国産業廃棄物連合会青年部協議会は、各地区の青年部会が連携してCO₂排出削減に取り組む「CO₂マイナスプロジェクト」をスタートさせた。全産連の「環境自主行動計画」の達成に向け、創立10周年を迎えた青年部協議会が年間を通じた記念事業として企画。業界を挙げて地球温暖化防止などに貢献する。プロジェクトを推進する愛知県産業廃棄物協会青年部会の加山順一郎会長に取り組みの概要や狙いなどを聞いた。

業界の将来占う試金石に

日々の取り組みで環境貢献

「一つひとつは小さな取り組みでも集まれば目に見える結果につながる」と話す加山順一郎青年部会長

―CO₂マイナスプロジェクトとは。

「参加希望企業がそれぞれ可能な範囲で省エネ対策に取り組むプロジェクト。暖房の設定温度を22度から20度に下げる、休み時間の冷暖房停止、事務所の照明も消す、車両のアイドリングストップ実施、廃棄物の処理方法を焼却処理からマテリアルリサイクルに切り替えるなどの取り組みを日々積み上げる。全国の青年部会2000社が1ｔずつ削減すれば2000ｔにのぼる。一つひとつは小さな試みだが、みんなで協力すれば目に見える結果が得られる」

―プロジェクトの狙いは。

「廃棄物処理業界は今日の産業社会の発展を陰で支え続けてきた。社会基盤には欠かせない静脈産業だが、その取り組みは一般の人々に伝わりにくい面がある。業界を挙げてCO₂削減という環境貢献活動に向き合うことは社会に相応の影響をもたらし、業界のイメージアップにもつながる。プロジェクトそのものは決して難しい取り組みではないが、その成否は廃棄物処理業界の行方をうらなう試金石ともなりうる」

―具体的なスケジュールを。

「参加希望企業にはプロジェクトのホームページからエントリーしてもらい、毎月の燃料、電気などの使用量を指定ツールのフォーマットで記入する。温室効果ガスは自動で計算されるので、ツールにしたがって報告書を作成、事務局に提出してもらう。算定対象期間は過去にさかのぼった07年11月から今年9月まで。数値目標を設けているわけではないが、業界一丸となって削減努力に努める」

地域や子どもの未来への「一歩」

―成果をどう生かすか。

「今年11月に『海よ、空よ、大地よ』をキャッチフレーズに、横浜市で開催する青年部協議会の第7回全国大会で結果発表や各種表彰を行う。優良取り組み部門やエコアイデア部門、身近な環境保全活動、共同削減プロジェクト部門など各種部門を設ける。CO₂の削減量を競い合うというよりも、様々な削減方法やアイデアなどをお互いに学び合う機会にしたい。地域のために、子どもたちの未来のためにまず一歩を踏み出す」

企画・制作
中部経済新聞
営業局

電動バイクで市民にアピール

社団法人
愛知県産業廃棄物協会青年部会

青年部会会員の電動バイクキャラバン隊

後継者育成と業界全体のスキルアップを目指す社団法人全国産業廃棄物連合会青年部協議会は各地区の青年部協議会が連携して、CO₂排出量削減に取り組む「CO₂マイナスプロジェクト」をスタートさせているが、このプロジェクトは、上部組織である全産連が平成18年11月に策定した「環境自主計画」の一環として推進するもので、CO₂排出量削減の積極的な取り組みを国や一般市民にアピールし、業界を挙げて地球温暖化防止に貢献していくものである。

そのキャンペーンで愛知県担当の青年部会会員の電動バイクキャラバン隊が愛知県産業廃棄物協会を訪問、報告をしたあと名古屋栄のセントラルパークまで走りアピールをした。